

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	嵯峨野ケアセンターそよ風独自の理念を掲げ、スタッフ全員が共通認識して毎日仕事やケアにあたっている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼で出席者全員で声だしにて唱和することにより、認識をあらたにし、また各階のフロア会議や全体会議にて話し合い、理念に基づいたより良いサービスの向上、提供ができるよう取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関や廊下などの目につきやすい場所に理念を掲示している。家族や地域の方が来訪された時にお話できる機会があれば、お話している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やそよ風農園での畑仕事の際にご近所の方など、お見かけしたときは、スタッフの方から挨拶をさせて頂いたり、畑で収穫された野菜、またセンターで頂いたもののお裾分けなど、積極的に地域の方とのコミュニケーションを図っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1度運営推進委員会をセンターで開き、情報公開の場を設け、地域の敬老会やお祭り、運動会など、地域のイベントに参加したり、またセンターでのイベントにお誘いしたり交流を積極的に行っている。また、自治会にも参加し町内の役も引き受け地域の一員として協力している。	

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>毎月一度、センターにて介護者の集いを開催し、地域の方の認知症介護についての相談や、ご本人が認知症である方も相談に来られ、お話を聞かせて頂いたり、意見交換の場となるようにしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>様々な項目について職員が評価を行うことで施設の現状や課題について気づき、改善することにより、より良い施設運営を行うようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて現状報告をさせて頂き、毎月の行事などの紹介、また地域での出来事、センターの食事も食べて頂き、ご意見を聞きまた、他施設での現状や意見をお聞かせ頂きサービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>右京区サービス事業者連絡会やケアマネ連絡会等に参加している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の研修に職員が参加したり、実際に現在後見制度を利用されている利用者さまもおられる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やマニュアルなどにより高齢者の虐待防止についての認識を深め、虐待が見過ごされないようにスタッフ間で注意を払っている。</p>		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容については十分に説明させて頂き、疑問や質問がある場合には補足し、再度十分な理解が得られるようにお話させて頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活においてご利用者の意見、不満をお聞きして、改善できることはすぐに反映できるように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>そよ風での暮らしぶり等をよくわかるようにそよ風便りを発行し、また健康状態や金銭管理、職員の異動については個々に電話連絡や来訪時に報告させていただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置したり、家族会また来訪の際に家族様からのご意見ご不満、苦情などをお聞きして、反映するように努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議やフロア会議にて職員の意見を聞き、反映するようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>様々な変化に対応できるよう、毎朝朝礼時に各階の利用者さま健康状態を含める報告を行い、何か特変があれば、対応できるように各階の連携を図り、対応している。また、職員のシフトの調整がどうしても無理な場合は各階への職員のヘルプ体制を作り、各階協力体制を組んでいる。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が自分のフロアの利用者様だけでなく、他のフロアの利用者様についても理解、面識を深めるように、日頃より他の階へ応援にいたり、全館でのイベント時に情報交換を行ったりしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて職員がより幅広い知識や技術を身につけてステップアップしていけるように、地域の研修、また会社グループ内での研修へ申し込んだり、指導を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所の職員との勉強会やイベントなどを通じた交流をはかり、サービスの質の向上に向けた取り組みをおこなっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を設け、利用者様から離れて休めるよう配慮したり、また、会社より新年会や親睦会なども行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自分の能力を發揮できるよう業務の役割分担や能力の向上のために内外の研修に参加できるよう体制作りを行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人様からお話をよくお聞きし、少しでも不安を取り除けるように努めている。また、入居前には見学や体験入居もして頂いている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族様からよくお話をお聞きし、今困っておられることや求めて折られることをよく理解し、要望にお応えできるように努めている。</p>	

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分にお話をお聞きし、今何を必要としているのかを見極め、他のサービスの利用も含め選択して頂いている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前に見学や体験入居をしていただき、職員や他の利用者様とも顔なじみになって頂き、徐々に雰囲気になれて頂けるようにしている。また、馴染みの家具等も持って来ていただき雰囲気作りも大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者様と共に生活する場であるということに常に認識し、利用者さまの意思を尊重し、信頼関係を深め、より良い生活ができるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者さまのお誕生会に参加して頂いたり、昼食を共に摂って頂いたり、年に一度の大文字の送り火には家族様同士の交流もして頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時には家族様に利用者様の現在の状況をお知らせすると共に居室にてゆっくりとくつろいでお話をしていただけるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のお友達や親戚の方が来訪されたときは、居室やリビングにてゆっくりとくつろいでお話できるように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を把握しスタッフ間で意見共有し、レクや散歩、食事の際に利用者様が楽しく生活できるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も年賀状や暑中見舞いをお出ししたり、また気軽に訪問して頂いたり、入院されている方のお見舞いに伺うなど、現在もお付き合いをして頂いてる方が多数おられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを傾聴し、個別対応にてご本人のご希望に添えるよう外食や外出なども随時行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報を共通認識とし、また利用者様本人からのお話も聞きながら、利用者様ご本人らしい生活が送れるように配慮している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様個人個人の一日の過ごし方や現在の状態をスタッフ全員が把握できるように、申し送りノートや個別ケアノートを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活においてご本人さまの課題やケアのあり方について考え、ケアカンファレンスにてスタッフが意見を出し合い、ご本人様がご本人様らしい生活が送れるよう、より良い生活ができるように介護計画を作成している。家族様にはサービス提供書にご希望を記入して頂いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、また利用者様の状態の変化に応じてケアカンファレンスを行い、適宜介護計画の見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、毎朝の申し送りなどにより情報を共有すると共にカンファレンスにてスタッフが意見を出し合い介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GH単独のサービス提供のため、色々な要望に柔軟な対応がとれてこれたとは言えない。		近隣地域や同じグループ内にてデイサービスを併用した施設も完成しており、今後は利用者様、家族様のニーズに応じたサービスが提供できるように協力していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や警察、消防などの関係各機関との連携を図り、支援させて頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じ、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者様に連絡を取り、相談に応じている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方に毎回出席していただいている。また、近隣の高齢者を抱える方への相談や支援などを施設として行っており、地域包括支援センターにも相談、連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の協力病院からの往診、歯科医の往診があり、医療スタッフとの連携を図り、利用者様の健康維持につとめている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院にて専門医の診察や治療が受けられる。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力病院の看護師に気軽に相談でき電話にて指示していただき、対応して頂いている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院されたときには病院との情報交換を蜜に行い、出来る限り病院にスタッフが面会に行き近況報告をうけるようにしている。また、退院後もそよ風での生活についても病院側からサマリーを頂き、支障のないようにしている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族様、医師、センター長の三者による面談を行い、終末期のありかたについて方針を打ち出され、スタッフも方針を共有している。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>会社グループ内にて実施されるターミナルケアの勉強会にスタッフが参加し、勉強会に参加していないスタッフにも書面にて内容報告を行っている。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族様や関わるケア関係者の間で十分な話し合いと情報交換を行い少しでもダメージを防ぐようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについて、接遇マナーの勉強会を行い、全体会議などでスタッフの共通意識を高め、常に年長者の方の誇りやプライバシーを損ねるような声かけをしないよう心がけている。また個人の介護記録などは取り扱いに十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の意思を尊重し、お話を十分に聞くことにより思いや希望を把握し、できるだけ希望をかなえられるようにしている。また、日々の色々な場面での質問に利用者さまに意見をいっていただけるような声かけにもつとめている。(飲み物やおやつ、味付けなども全員一定ではなく自己決定して頂き、お出ししている)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活のなかにおいて何事にも利用者様本位に考え、少しでもその人らしい生活が送れるように配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度の訪問美容にて整髪されている。入浴後にはスタッフが頭を整髪させて頂いたり、お化粧をされる方についてはそのお手伝いをさせていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材を仕入れ、料理に取り入れている。暦による四季の行事には必ずその食べ物を食していただき、よろこんで頂いている。また、食事の準備や後片付け、調理などについても日常的にして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人様の意思を尊重し、その都度お酒やタバコも楽しんで頂いている。	

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者さまの排泄パターンを把握し、トイレ誘導にて排泄されている。また、夜間パットを使用されている方については定期的にパット交換させていただいている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後から17時頃までで入って頂いているが、希望により午前中からも入っていただくこともある。少しでも楽しんで頂けるように入浴剤の使用や季節に応じゆず湯を行ったり喜んで頂いている。また入浴を拒否される方もおられるが、タイミングを見計らい再度声かけにより入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人個人の睡眠パターンがあるので、その方に適した時間に入床していただく。また、起床についても個人個人の時間に起きてもらえるので意思を尊重し、個別対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力や得意なことを引き出し、お手伝いをして頂き、そよ風での生きがいや喜びのある日々を送っていただけるようにしている。また、利用者さまのお好きな事へのお手伝いにも努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族さまよりお小遣いをお預かりしが、ご本人の希望により一緒に買い物に出かけたときには、レジ前にて見守りのもと、お好きなものを購入して使用して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日一度外気欲や散歩を楽しんでいただけるように配慮し、ひとりひとりのご希望に添えるように個別対応にて外出や外食に取り組んでいる。		個別対応にて散歩や買い物にでかけることもあるがもう少し回数を増やすように職員体制などの工夫に努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	要望に応えられるように個別レクの計画を立て、外出の支援を行っている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、またお孫さんやお友達への手紙を書かれたり、電話でお話されている方もおられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時には居室にて気兼ねなくお話ができるようにしている。また、再度来訪していただけるような声かけも積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的に実施は行っていないが、家族様の要望により、ベッドに4点柵をさせて頂いている利用者さまもおられるが拘束する際に条件を掲げ、出来る限り身体拘束をしない方向へケアを工夫して取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全への配慮の為玄関についてはオートロックになっているが、居室や他の場所については鍵をかけないケアを実施している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してご利用様のプライバシーには十分配慮しながら見守りを行い、ご利用様の所在を把握し安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて可能な限り職員の見守りのなかで使用していただけるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ全員が緊急時の対応について対処できるように、全体会議やフロア会議などで過去にあった事故報告書をもとに事例検討会の勉強会をしている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全体会議やフロア会議にて消防署などによる訓練や応急手当の講習を行っているが、回数が少なく、全員に周知できていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の定期的な訓練にて、緊急時の避難誘導などがスムーズにできている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者様の現在の状況については、ご家族様の来訪時にお話させていただき理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、利用者様個人個人のバイタルチェックを行い、現在の状態を申し送りノートや介護日報に記入しスタッフが共通認識をもち対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方される薬の薬剤情報にスタッフ全員が目を通し内容などについてよく認識しており、服薬については十分な注意を払い、間違いのないように行っている。また、状態の変化をいち早く察知し、医師の指導を受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バイタルチェックと共に排泄チェックを行い、便秘にならないように牛乳やヨーグルトの摂取を促し、それに合わせて医師からの指示のもと、下剤の服用による排便コントロールを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアはスタッフが誘導のうえ、全員に行っている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事の摂取量・水分量を記録チェックを実施し、また、バランスよく食べていただけるように盛り付けの工夫や、個人の状態により刻んだり、ミキサー食などの対応もしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全体会議や感染症に対する勉強会においてスタッフ全員が知識を深めると共に、マニュアルで決められた内容を実践している。また、日常的にご利用者様やスタッフもうがい・手洗い・消毒の徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週三回入荷する食材の日には冷蔵庫内の食材を全て外に出して冷蔵庫内を掃除すると共に古いものから先に使用するように食材の管理に努めている。また調理器具(まな板、布きん、など)については毎晩ハイター消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には鉢植えや小さな滝もあり、また、ベンチやイスも常時、沢山置いてあるので利用者様や家族様にも親しみやすい憩いの場としての提供が出来る。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には近隣の画家様から提供された絵画を飾ったり、リビングにはお花を飾るなどして雰囲気づくりをしている。また、利用者様の個人個人の居室の入り口にある表札には月替わりで四季折々の絵を飾り、心地よく過ごしていただけるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーターホールの横に本棚やイスを置き、読書をしていただいたりお話をさせていただいたり出来るスペースを設けている。		

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやなじみの家具を持ってきていただき、その人らしい居室づくりをしていただいている。それにより居心地よく過ごしていただけるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、朝昼に窓を開放し、空気の入替えを実施し、冬季については加湿器を使用している。また、利用者様の個々の体調に配慮し、こまめな温度管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで、手すりも設けられており、利用者さまが安全かつ快適な生活が送れるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ひとり一人の残存能力を引き出し、足りないところは支援し、共に生活を送れるようにスタッフが心がけ、混乱や失敗があってもゆったりを対応し、自立して過ごしていただけるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には鉢植えや小さな滝もあり、また、ベンチやイスも常時、沢山置いてあり利用者さまに楽しんでいただいている。またそよ風農園で野菜やお花を作りご利用者さまの活動の場を活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

嵯峨野ケアセンターそよ風(3F)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様個人個人にスタッフが寄り添い、利用者様本位のケアが行うことができるようにスタッフが常に意識して行動している。また、職員同士が意見共有に努め、利用者様に満足して頂ける様、又、リスクマネジメントを行い、その利用者さまに受け入れて下さるように工夫してケアを行っています。日々の中でスタッフと利用者様が共に楽しみ、悲しみ、喜びを共有する関係になれるよう利用者様とのゆっくりとした時間をすごせるようなケアができるようにスタッフ全員が努めています。